

僕が思いつく小さな親切

青森県 大戸瀬中学校 1年 古川 大夢

僕の中学校では、春にボランティア清掃活動を全校で行っています。校門から国道の約1キロメートルを清掃しています。

今年初めて参加しましたが、予想以上にごみの量が多く、びっくりしました。どうしてこんなごみが？という、ボンベやパイプなどもあり、不思議でたまりませんでした。

今は、ごみを捨てるのにもお金がかかるものもあり、簡単に処分できない時代になりました。だからといって、「ポイッ」とそこら辺に捨てていいのでしょうか？ 美化だけの問題ではなく、ボンベは爆発という危険性もあります。パイプも、道路にはみ出すと車の通行のさまたげとなり、事故の原因になると思います。

僕には、ごみを捨てるという気持ちがわかりません。各市町村で曜日ごとにごみの収集車が回収に来てくれるし、僕の住む深浦町は、「アフィ」という施設にごみを持っていくと、処分してくれます。電化製品も家電量販店に持っていき、お金を払うと処分してくれます。ちょっとした心がけで町をきれいにできると思うのです。

僕には、もう一つ気になっていることがあります。それは、ときどき遊びに行く公園です。お菓子などの空き袋、ペットボトル、たばこの吸い殻などがあちこちに落ちていることです。僕は、食べたお菓子のごみ、飲んだペットボトル、大人たちが吸ったたばこの吸い殻をどうしてポイ捨てるのだろうか？ なぜ持ち帰って捨てないのだろうか？ 汚い公園で遊んで楽しいのだろうか、遊びに来るたびに思っています。

いつも「ポイ捨てる」をしている人は、それがあたりまえで気にすることもなく、食べたら「ポイッ」と捨てているのだと思います。捨てる人の気持ちはどうなっているのだろうか。ごみを拾うことは大変だけど、捨てることは簡単です。簡単な方を選んで、周りのことを思いやれなくなっているのではないか。

一人ひとりが、食べたお菓子の空き袋やペットボトルを持ち帰ることが、小さな親切の一つだと思います。なにかをしてあげることだけが親切ではなく、「きれいにしましょう」という気持ちで行動することが親切だと思います。まず、こういう気持ちをもつことで、身近な公園がきれいになり、大人から子どもまでも、改めて「きれいに使おう」と思えるはずです。そうなれば、道路への「ポイ捨てる」もなくなっていくでしょう。

そして、身のまわりをきれいに使おうという気持ちがあれば、日常生活で友達や先生にも気遣いできるようになり、きっと毎日楽しく明るく生活できるようになると思います。僕は、これからも身のまわりをきれいに使っていき、ごみが落ちていけば拾っていきます。楽しく明るく生活するために。